



学校だより

11月16日(木) 特別号 文責 校長 中根 猛

今回は、7月3日に実施した1年生と2年生の学力テストの結果と平成29年4月18日(火)に実施した3年生の「全国学力・学習状況調査」についての分析結果をお知らせします。

1 全国学力・学習状況調査(3年)について

(1) 全国の平均正答率との比較

国語A・Bは全国平均を上回っている。数学A・Bは全国平均を若干下回っている。

→国語は、語い力を増やし、自らの言葉で表現できる生徒を目指す。数学は上位の生徒の割合が少ないので、基礎・基本の定着を図るとともに、個に応じた指導を繰り返す。

(2) 領域別における課題と対応

① 国語

○ A問題

「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」において正答率の低い問題がある。
→日頃の授業において、語いを増やし、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの場を多く設定する。

○ B問題

「目的に応じた資料を効果的に活用して話す」における正答率が低い。
→伝えたいことを明確にし、必要な情報や効果的な資料をよく理解したり・吟味する能力を育てる。

② 数学

○ A問題

「図形」と「関数」の領域における正答率が全国平均と比べ低い。
→図形では長さや角度を求める公式を繰り返し確認する。また、空間概念を身につけるため、授業の中で見取り図や展開図をかく機会を設ける。
→関数では、表と式とグラフの関係を意識して問題を解かせる。

○ B問題

「資料の活用」の領域における正答率が全国平均と比べ僅かに低い。
→「資料の活用」に必要な用語を確認し、継続的に復習をさせる。

2 学力テスト(1・2年)について

(1) 1年(7月3日、国語、数学、英語、理科、社会の5教科で実施)

① 分析結果

国語、数学、社会は県平均を上回っており、数学と理科は県平均をやや下回っている。
平均正答率の男女比では、女子は理科を除き4教科において県平均を上回り、男子はすべての教科で県平均を下回っており、男子生徒へのさらなる指導・支援が必要である。

② 今後の対応(各教科から)

○ 国語

ことわざや慣用句、漢字の書き取りなど言語知識に関する正答率が伸びなかったため、授業において漢字の読み書きの豆テストを増やして基本事項の定着に努める。

○ 数学

図形などの扱いや、四則の混合問題など、応用に対して正答率が伸びないため、複合

問題などを通じて応用力を身につけさせる。

○ 英語

授業時の英問英答や既習事項を用いた表現練習、スペリングコンテストによる新出語句の定着を目指す。

○ 理科

多くの内容で平均と同程度の定着であるが、テスト前の確認プリントなどで定着の確認と補充を行う。

○ 社会

授業において、教材の精選を図りながら内容や用語等の軽重を意識して指導にあたり、互いに学び合い、高め合うことのできる学習課題を設定し、表現力や思考力の向上を図る。

(2) 2年(7月3日、国語、数学、英語、理科、社会の5教科で実施)

① 分析結果

女子の国語は県の平均を上回っているが、男女を合わせるとすべての教科において、県平均を下回っている。全体的な底上げが必要と痛感している。上位の生徒を伸ばしつつ、つまづきの見られる生徒への、個に応じた支援が必要である。

② 今後の対応(各教科から)

○ 国語

全体的な傾向として、書き取りを中心とした漢字の学習が必要である。また、既習事項の復習を重点的に行うように指導する。

○ 数学

授業や家庭学習の指導の中で、「苦手な問題も解説を参考にじっくりと取り組むこと」を意識させた学習に取り組ませる。

○ 英語

単語テスト等を行うなどして基本的な単語の確実な定着を図る。また、教科書の本文以外の長文を読む機会を増やし、読解力を鍛える。教科書の視写やスペリングコンテストを通じて、英語を書くことに親しむ。また、プリントを活用し基本文の定着や本文の内容理解に努める。

○ 理科

授業で基本の確認を行い、プリントなども活用して学習内容の定着に努める。

○ 社会

教材の精選を図り、内容や用語等の軽重を意識して指導にあたる。その上で、互いに学び合い、高め合うことのできる学習課題を設定し、表現力や思考力の向上を図る。また、基本的な内容の知識定着を図るために、教科書本文を繰り返し読む習慣を身につける。

3 本校としての学力向上へ向けた取り組みについて

教師の指導力向上と生徒の基礎・基本の確実な定着を図るため、次のことを継続的に実践する。

(1) 校内の互見授業を実施し、反省事項や意見を生かし指導力を向上させる。

(2) 教室内の整理整頓に努めて学習環境を整え、2分前着席を徹底し、落ち着いた雰囲気での授業が開始できるようにする。

(3) 授業の導入段階で、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の設定の工夫をする。

(4) 授業の展開段階で、生徒どうしが学び合い、高め合うことのできる学習活動を積極的に取り入れて生徒の表現力や思考力を育てる。

(5) 授業時は生徒にとってわかりやすい板書を工夫することで知識の定着を早める。

(6) 学び合う学級集団形成(学級経営)と家庭学習を充実させるため保護者への啓蒙を図る。